

令和 8 年 2 月 4 日

3 時 50 分 受付

## 一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 17 番 氏名 岡本正友

答弁を求める者  市長  教育長  監査委員  選挙管理委員会委員長

(口をつける)  農業委員会会長  固定資産評価審査委員会委員長  公平委員長

### 発言項目及び要旨

#### 1・防災減災を基軸とした持続可能な地域づくりについて

近年、全国各地で自然災害が激甚化・頻発化しており、本市においても防災減災対策の強化は喫緊の課題である。

先般の総務委員会視察では、松山市の全世代型防災教育や「逃げ遅れゼロプロジェクト」、今治市のフェーズフリー防災拠点型施設を確認した。

また、会派視察では移住定住促進施策を調査し、安全・安心な暮らしが人口減少対策に重要であることを再認識したところである。

さらに、視察の道中に大分市佐賀関の田中地区を訪ね、昨年 11 月の住宅密集地で約 170 戸が焼失する大火災が発生した現状を確認し、防災体制や避難環境の課題が顕在化していると感じている。

本市が今後も人が住み続け、選ばれる地域であるためには、防災教育・地域づくり、文化資源活用、移住定住施策を連動させて取り組む必要があると考え質問をする。

#### (1)防災減災施策の現状認識について

- ① 市における近年の災害リスクの特徴と、防災減災に関する現状認識について伺う。
- ② 昨年 11 月に発生した漁村住宅密集地での大規模火災について、市として把握している課題と、今後の対策の方向性について伺う。
- ③ 住宅密集地や高齢化が進む地域における初期消火体制および避難体制について、どのような課題を認識しているか。

#### (2)全世代型防災教育の推進について

- ① 松山市では、子どもから高齢者までを対象とした全世代型防災教育を体系的に進めているが、本市における防災教育の現状と課題について伺う。

- ②学校教育における防災教育と、地域・家庭・高齢者への防災意識啓発をどのように連携させていく考えか。
- ③「逃げ遅れゼロ」を目指す観点から、要配慮者への支援体制や個別避難計画の整備状況について伺う。

### (3) フェーズフリーの考え方と防災拠点整備について

- ①今治市では、平常時と災害時の両方で機能する「フェーズフリー」の考え方を取り入れた防災拠点型施設が整備されているが、本市の公共施設整備における防災視点の位置付けについて伺う。
- ②既存施設を含め、平常時は地域の交流拠点として、災害時には避難所・支援拠点として活用できる施設整備について、今後検討する考えはあるか。

### (4) 文化資源（神社・寺院）の防災活用について

- ①本市には神社 103 社、寺院 116 寺が所在し、地域の歴史・文化を伝える貴重な資源であるとともに、立地や構造から避難所としての可能性を有する施設も多いと考えるが、市の認識を伺う。
- ②登録有形文化財（建造物）を含め、神社・寺院の歴史資料や建築情報のデータ化、市史としての整理状況について伺う。
- ③文化財保護の観点を踏まえつつ、災害時の一時避難場所や防災拠点として活用する可能性について、今後検討する考えはあるか。

### (5) 防災減災と移住定住施策の連動について

- ①移住定住促進において、「安全・安心な暮らし」は重要な判断材料となるが、本市の移住定住施策に防災減災の視点をどのように反映しているか。
- ②防災体制の充実や地域コミュニティの共助の仕組みを、移住希望者にどのように情報発信していく考えか。

### (6) 今後の総合的な地域づくりについて

- ①防災減災、教育、文化資源の活用、移住定住施策を連動させた「人が住み続けられる地域づくり」について、市長の所見を伺う。